

# 藤岡市 議会だより



発行日 平成 18 年 8 月 15 日 発行 藤岡市議会 編集 藤岡市議会だより編集委員会 印刷 株式会社エスエイ印刷  
藤岡市ホームページ <http://www.city.fujioka.gunma.jp/>

第35号

## 正・副議長決まる

5月の臨時会において正・副議長が決まりました。

議長 吉田達哉



副議長 山田朱美



## 就任にあたって

市民の皆様にと就任のご挨拶を申し上げます。

市政の推進につかまは、日頃より市民の皆様方の深いご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

この度、平成18年第3回藤岡市議会臨時会におきまして議員各位のご推挙により私どもが議長・副議長に

就任をさせていただきました。

平成18年1月1日、藤岡市と鬼石町が合併し、35人の議会が構成されました。藤岡市と鬼石町の合併が市民の皆様にとってより良き

ものになりますよう努力する所存であります。また、激しく変化する社会環境のもと、地方分権化や行財政改革等課題が山積しております。市民の声を公平公正に反映させ、わかりやすく

伝えられる議会を目指したいと考えております。

今後とも、皆様のご指導とご支援をお願い申し上げます。就任の挨拶といたします。



## 6月定例会の あらまし

定例会は、6月14日から6月29日まで16日間の会期で開催されました。

平成17年度鬼石町一般会計歳入歳出決算認定についてなど24議案が提出されました。

14日〓本会議 会期の決定。議案23件を上程。うち12議案を即決。

15日〓総務常任委員会。経済建設常任委員会。

16日〓教務厚生常任委員会。

20日〓決算特別委員会。

26日〓本会議 一般質問。

29日〓本会議 委員会付託議案11件を可決。

市長提出追加議案1件を即決。

# 一般質問

湯井 廣志

## 少子化・出産奨励

### 対策について

**問** 人口を維持する水準は、2・08と言われているが、現在の合計特殊出生率は1・25と過去最低となっています。

この状態が続けば、21世紀末には人口が半減すると言われています。国も様々な施策を展開していますが、一向に解決の目処が立っていません。一自治体のした施策を国が取り上げた例もあります。私に幾つかの施策を示します。藤岡市で行う考えがあるか伺います。まず、子供が生まれた時、子供名義の定期預金証書を贈る・児童手当を中学3年生まで支給する・給食費を無料にする・3人目の子供を生

んだ家庭には、公共施設使用を無料とする・又、市民税等を優遇する・出産予定前後一年間の母親負担軽減のために、ホームヘルパー制度を全国に先駆けて創設する考えはないか伺います。

**答** 子供名義の定期預金証書や、児童手当の拡大、ホームヘルパーの派遣については、国の動向を見ながら、また第3子に関する提案については、地域の実情を反映させた施策を研究していきたいと考えています。

### 消費者保護・詐欺・

### 防犯対策について

**問** 新手の詐欺や子供を狙った犯罪が多発していると報じられているが、様々な情報をいち早く市民に周知し、被害防止対策に努めることが最

も大事なことである。今迄どの様な被害防止対策をとって来たのか。また、犯罪防止や抑止力の観点から市職員が外出する時、防犯腕章をつける考えはあるか。又、来年度から警察官の大量退職が始まり、治安悪化が懸念されるが、退職した警察官を嘱託雇用する考えはないか伺います。

**答** 近年、犯罪発生件数が増加し、市民生活の安全が脅かされています。被害を出さない様にしていくためには、議員指摘の方法は犯罪防止や抑止等の観点から大変有効であると考えますので実施できるように関係部局と調整し、積極的に取り組んでいきたい。

大久保 協城

### 防災・防犯対策について

**問** 幼児虐待や育児拒否、これらを含む子供を取り巻く

社会問題についての認識と対策について伺います。

**答** 保健センター直通の子育て110番を設置、年間300件以上の相談があり家庭訪問も実施しており、夜間、休日はぐんまこども相談センターと連携し24時間対応としています。又、藤岡市安全安心まちづくり推進条例の制定を踏まえ、地域自主安全パトロール隊を組織し児童の下校の時間帯を中心に防犯パトロール活動を行っております。旧鬼石町では、まだ組織されておりませんが設立に向けて準備中です。

**問** 鬼石消防分署では救急

出動中は、火災出動が人員上困難とされますが、旧鬼石町では合併と同時に消防団の編成がされました。地域の消防団の活動は自然災害の対応から防犯までと多岐にわたりますが、これを踏まえ今後の分団員の確保を含む消防団運営

について伺います。

**答** 消防体制の強化を図る面からも、柔軟な対応が必要と考えます。大規模災害などには消防団OBや市民の力も必要で自主的な防災組織の活性化を図るなど、積極的に支援を進めて参ります。

茂木 光雄

### 義務教育について

**問** 児童・生徒の安全と基礎学力の向上について伺います。

**答** 建築基準法の改正が平成17年12月に施行され、建築物を新築、増築するときに、防火シャッターの改修等を行うことが義務づけられました。学校施設は児童・生徒の安全を最優先に考えており、小学校・中学校に設置されている75基のシャッターについては、本

年度から10力年の耐震補強及び大規模改修工事の年次計画と併せて順次安全装置つきの防火シャッターを整備していきたい。

藤岡市の児童・生徒の学力の現状については、平成17年度は小学校の国語53・2、算数54・7、中学校の国語54・4を最高に最も低い社会で51・8と全ての教科で全国平均を上回っている。

学習はわかるまで教えるということが個々を伸ばします。授業時間を週に1、2時間増加し、さらに教員の指導力の向上のための教育相談、教務主任・校内研修主任の研修など職能成長のために研修会を実施している。



### 新市建設計画について

**問** 合併特例債の対象事業において古桜町広場に藤岡・鬼石地区山車の展示保管館を建設し、太鼓、お祭り、山車による市民のふれあいと世代間の交流をもとに中心市街地活性化を図る考えはないか伺います。

**答** 合併特例債の対象事業として、合併市町村の一体性の速やかな確立を図るための道路・橋梁等の公共的施設の整備事業、住民の連携の強化を図る新しい文化創造に関する事業の実施、地域行事の展開、伝統文化の伝承等の事業があります。今回の提案につきましては、合併に伴う旧藤岡市・旧鬼石町の住民の一体間の醸成を図る上で貴重な提案と受けとめるとともに、中心市街地活性化対策の観点からも、今後の課題として検討したい。

### 斉藤 千枝子

### 高齢者対策について

**問** 介護予防の地域支援事業として、元気な高齢者に研修をして（仮称）健康サポーター制度を創設し、全地域に活動を展開できないか伺います。

**答** 非常に重要な制度と認識しています。高齢者の自立を支援する上で地域ぐるみの推進体制の構築は不可欠です。元気な高齢者の力を積極的に活用し、みんなで支え合う地域づくりに努めていきたいと考えております。

**問** 日野地域の一部では介護サービスを受けることが大変困難な状況です。廃校を活用して市として介護支援施設を設けるべきと考えるが伺います。

**答** 財政的に困難と考えられますが、地域間で格差

が生じない様にしていく必要があります。今後、地域密着型サービス事業を生かした対応を図ってまいります。

**問** 介護保険の住宅改修サービスは、利用者が費用の全額を負担し、申請後に限度額の9割が戻ってくる償還払いになっているが、利用者は1割を払い、残りの9割は市から直接事業者を支払う受領委任払いにできないか伺います。

**答** 要望に合わせた対応がとれるよう、利用者の負担の緩和を考えた対応を実施したいと思えます。

**問** 3階、4階建て市営住宅入居者の高齢者が他の市営住宅に住みかえは可能か。又、県営住宅に手すりもないが対応を伺います。

**答** 相互に入替わることが互いの利益となり、お互いが納得した上では可能であるが現状では大変難しい。

県営住宅については群馬県住宅供給公社で、入居者が65歳以上の高齢者及び身体障害者から手すり設置の依頼があれば対応しています。

### 少子化・子育て支援について

**問** 不妊治療費の助成をしていただきたいが伺います。

**答** 経済的負担の軽減を図る為の助成等の取り組みを指示しております。さらに積極的に進めてまいります。

**問** 医療制度改革により乳幼児医療費の市の負担が軽減となる。この財源を医療費無料化の拡充や少子化、子育て支援に使うべきと考えますが伺います。

**答** 今後も福祉医療の増加が見込まれております。少子化・子育て支援対策は急務であると承知しており、財政状況等踏まえ、十分検討させていただきます。

### 三好 徹明

#### 高齢化対策について

**問** 高齢者の社会参加、健康維持・増進施策を積極的に進めることによる介護予防の成果は、家族の負担や医療、介護給付費などの軽減につながり、年々縮小する予算を少

子化対策に振り向けることも可能になるでしょう。また、高齢者が持つ潜在的エネルギーを活かすことにより、高齢者自身の生きがいにつながり、主体的な地域社会への参画を促進し、相互扶助やその他の地域機能の活性化が期待されると思っています。

**答** 高齢者が活力を持つて元気に生活する社会を構築することが、高齢者対策として重要なことであると認識しております。その意味からも、高齢者の健康増進対策や元気な高齢者のパワーの活用は必要と感じて

おります。議員提案の趣旨はよく理解しておりますので、前向きに検討してゆきたいと考えております。

永井 孝男

#### 中心市街地活性化 対策について

**問** まちづくり三法と言わ

れる中心市街地活性化法、大規模小売店舗立地法、都市計画法が改正され、旧鬼石町が平成14年度に国の認定を受けた中心市街地活性化基本法、藤岡市が認定した鬼石地区のTMO構想、いずれもこの改正で法的根拠がなくなった。旧鬼石町は中心市街地活性化基本計画に基づいてハード事業の整備を着手した所であり、この中心市街地活性化基本法、新基本計画に向けて改正をし、認定をしていただくお考えはあるのか伺いたい。

**答** この改正は、市街地から郊外への拡散を抑制し、

#### バス路線ネットワーク 基本調査について

**問** バス路線ネットワーク

基本計画を実施するのに、市民の声、利用者の声が反映されるような基本調査であってほしい。どのような組織で、どのような方法で行うのか伺いたい。

**答** 路線バスの収支決算は非常に厳しい状況にあり、今後、多くの市民が利用しやすい路線バスにしていかなくはならない。藤岡市路線バス等調査を実施するに当たり、路線バスと関係者で構成する藤岡市路線バス活性化検討委員会を組織し、住民意見の募集、現況バス路線の把握、バス路線の問題点の整理、バス路線等ネットワーク案の策定、デマンドバスの検討、実現化方策の検討及び今後の課題整理などを調査、実施する。今回実施する藤岡市路

線バス等調査報告に基づき、地域住民と協議しながら、市民が利用しやすい路線バスにしていきたい。

佐藤 淳

#### 当面する本市の課題 について

**問** 行財政改革大綱の中で

受益者負担の適正化との文言がありますが、私は真の行革の目的は、主権者である市民に新たな負担を課さないことが改革の主たる目的と考えますが、国民健康保険税等の値上げがあるのか伺います。

**答** 収支の改善について、検討作業をしており、検討内容を踏まえて対応してまいります。

**問** 選挙期間中に、1期4年の実績として、100億円藤岡市の借金を減らしたとのことですが、平成13年度末及び、平成17年度末の地方債残

高を伺います。

【答】 平成13年度末が289億円であり、平成17年度末が286億円であり

ます。

【問】 新市建設計画の中で、第3子以降の保育料無料化、軽減化がうたわれておりますが、現時点での検討内容及び進捗状況について伺います。

【答】 6400万円の予算が見込まれますので、保育の充実等で対処していきま

### 市道110号線道路

#### 改良について

【問】 平成17年度、平面調査を行ないましたが、調査内容と今後の予定について伺いま

【答】 国道254号線交差点から、西中学校の南までの延長約700メートルの区間についての現状の平面図を作成しました。この事

業については、平成20年度に測量設計となっております。

【問】 平成15年度に、美土里・平井・日野地区の区長会、美土里小学校・西中学校のPTA会長、そして議員7名が緊急課題として要望書を提出しましたが、なぜ、平成18年度予算をつけていただけなのか、特に子どもたちが危険な部分の交差点から、7メートルでもいいから、緊急に実施すべきと考えるが、このことについて伺います。

【答】 児童、生徒の交通安全上、早急にされたことの要望でございますので、都市建設部といたしましては、財政当局に予算要求してまいりたいと考えております。

### 清水保三

#### 小規模工事等契約

#### 登録制度について

【問】 この制度は平成17年度から実施され、市が発注する小規模で内容が軽易な工事、修繕費の契約、それらの受注を希望する者を対象とした制度で、入札参加資格者でない業者にも公共工事受注機会を与えることで、市内経済の活性化に寄与することを目的にされています。対象となる小規模工事等は1件当りの金額が50万円未満のものが対象です。この50万円の限度を引き上げる考えはないか伺います。

【答】 制度上は太田市のようにはできません。しかし、建設工事を例にとると設計金額が50万円以上になると業者側の契約等の事務手続きが煩雑になる。また物品の製造販売、清掃等の業務委託では、入札の参

加資格業者が小規模で電子入札等に対応できないなどの問題があり、これらの点も考慮しながら、見直しを検討したい。

#### 学童保育所の運営について

【問】 児童福祉法では、放課後児童健全育成事業は、児童の健全な育成に資するため、市町村は、地域の実情に応じた相談助言を行い、充実しなければならぬと児童福祉法の中に位置づけられています。昨今、悲惨な事件が各地で起こっています。子育て支援対策の面からも、その位置づけはますます重要になっていきます。質問1点目、施設整備に関する補助はどのようになっているか。2点目、施設に対する安全対策について、3点目、学童保育料は全国平均で5700円になっているが、藤岡市では平均でいくらになっているのか伺いたい。

【答】 施設整備費の補助は100万円を限度として補助する制度になっています。県と市で半分ずつと記憶しております。安全対策では、保護者が基本的に迎えに来るということになっております。保育料は、市内の平均はおやつ代を含め、各学年を通した単純平均で8089円になります。受益者の負担額としてどの程度が適当か今後検討して行きたい。

#### 諸政策の現状と対策

#### 橋本新一

【問】 安心の家制度の見直しと子どもたちが入りやすい学校トイレの対策について伺いたい。

【答】 安心の家の趣旨や意味については、広報等を通じて周知に努めてきており、例年、年度当初の区長会において、再度確認をしても

# 総務常任委員会報告

## 所管調査

当初見込みを大幅に下回ったまま推移している。

何らかの対策を講じて入場者の増加を計る必要があると思われる。

### 調査事項

#### 緑整クリーンセンター

緑整クリーンセンターは、ごみ焼却場から出た焼却残渣また資源化後の不燃残渣を埋立てる最終処分場として、平成11年4月から平成26年3月までの15年間の埋立施設である。

事業費は約21億2千万円（面積4万470㎡の土地代含まず）である。

埋立地内から発生する汚水を高度処理する設備を設け、放流先の河川の水質汚濁防止に万全を期すための浸出水処理施設が設置されている。

### 委員会としての意見

平成11年4月の埋立開始から7ヶ年が経過する平成18年3月末想定で、埋立量は約34%となり、残余容量約64%となるが、ごみの分

平成18年2月7日、本委員会は市内4施設の所管調査を行いました。

### 調査事項 ちらん藤岡

ちらん藤岡は、平成12年4月にハイウェイオアシス・道の駅「ふじおか」としてオープンした施設である。

その施設の主なものとして、藤岡特産のシンビジウムをメインに四季折々の花の展示が楽しめる「花の交流館」、地元生産者は朝採り野菜や花など販売でき、一方、消費者は新鮮で安価に入手できる農産物直売所や地域食材レストランが入った「アグリプラザ」、藤岡市や群馬県の特産品を展示・販売あるいは友好都市・中国江陰市や姉妹都市・石川県羽咋市の紹介コーナーなどが入った「観光物産館」、集客イベントや来場者の交流の場とやすらぎとしての「ふれあい広場」

など高速道路利用者、周辺一般道路利用者および地域住民の利用を想定整備され、事業費約4億5千万円（面積59・123㎡の土地代含まず）の施設である。

### 委員会としての意見

管理運営については、計画当初は市からの資金援助を行わず、独立採算での運営を目指していたが、平成17年度は年間2500万円、第三セクター（株）藤岡クロスパークに運営業務を委託している。

なお、（株）藤岡クロスパークの株主の出資割合は藤岡市6200万円・藤岡商工会議所と多野藤岡農業協同組合が各900万円・群馬銀行、東和銀行、多野信用金庫、かみつけ信用組合がそれぞれ500万円の合計1億円である。入場者については、平成13年度の約15.2万人をピークに増加傾向は見られず、

緑の清潔で快適なトイレ空間を目指すよう努めていきたい。

**問** チャイルドシートの再利用の仲介や購入補助金導入など着用率向上と子育て支援について伺いたい。

**答** 平成12年度にチャイルドシート300台を購入して貸し出しを実施している。これは県内市町村の中でも最も多い台数だが、申し込み後2、3カ月程度の待ちになってるのが現状である。購入から6年以上が経過しているので、買い換えも含め、どういう方法がいいのか模索しているところである。

### 建設工事発注について

**問** 指名業者の選定について伺いたい。

**答** 発注工事の規模、金額等を勘案し、適格業者を藤岡市工事等請負業者選定委員会で審議決定している。

らい、その結果を学校に伝えるなど、地域と学校の連携を図って来ておりますが、発足以来9年の年月を経ており、現状に合わないところもあるかもしれないので、子どもが犠牲になる事件が多発する今、初心に返って、これまで以上に周知に努めたい。また学校においても、利用する児童・生徒にとって、これまで以上の安心の家になるよう指導に努めたい。続いて、学校トイレについては、学校から提出されたトイレ点検報告書に基づき、専門業者による排管清掃や部品交換等を行い、また、容易な部品交換は学校でも行っております。老朽化によるトイレ改修については、毎年数カ所ずつ、和式から洋式への改修も行っており、また、来年度から実施する校舎の大規模改修工事の中ではトイレの大改修を計画し、悪臭とは無

別回収をさらに推進し、再資源、再使用、再利用し、ごみの減量化を諮る啓蒙運動を行うっていく必要があると思われる。

最終処分場を建設するには、地域住民の協力や理解を得ることは勿論のこと、莫大な費用を含めて大変ハードルが高くなることが予測されることから、現存の埋立地を温存しつつ、次の最終処分計画について心掛けておく必要があると思われる。

**調査事項**

**三杉町コミュニティセンター**

三杉町コミュニティセンターは、平成13年3月に総事業費約3790万円で旧鬼石町三杉町に建設された、敷地面積486・38㎡、床面積169・76㎡の木造・平屋建である。  
土地は年間28万円の地代が掛る借地である。

地区筋力トレーニング教室としても年間140日位使用しており、地区におけるコミュニティセンターの

果たす役割は大きい。

**委員会としての意見**

次の三つの理由から、平成18年4月1日から平成20年3月31日までの期間、指定管理者制度が導入される。

1. コミュニティセンター

の設置目的である地域づくりの拠点として、自治会等に管理を任せることが、最も効果が得られる。

2. 各自治会等はコミュニティセンター設置以来、

旧鬼石町と各施設の管理委託契約を締結しており、業務委託の実績がある。

3. 既に旧鬼石町のときに指定管理者制度の導入に当たっては、地元の自治会等と協議をしていた経過がある。

平成17年度まで補助されていた、区が管理しているコミュニティ施設の維持管理費がなくなる。

地代は平成19年度までは負担なし、平成20年度は半額、平成21年度からは補助金はなくなり、全額地元負

担となる。

地代の掛るコミュニティセンターと地代の掛からないコミュニティセンターができるということ、住民の負担に大きなバラツキができることが懸念される。

**調査事項 鬼石総合支所**

鬼石総合支所は藤岡市と鬼石町の合併によって、平成18年1月1日より設置されたものである。

支所には4課9係が置かれ業務を遂行する。

**委員会としての意見**

旧鬼石町るときから見ると、職員数も少なくなり規模も縮小されたようだが、住民の生活に支障が出ないように、また住民サービスにも怠りがないよう、従来にも増して気配りの行政に心掛けてほしい。

委員長	橋本 新一
副委員長	木村 喜徳
委員	岩崎 和則
"	大久保協城
"	三好 徹明
"	佐藤 淳
"	堀口 昌宏
"	冬木 一俊
"	西井 左近
"	坂本 忠幸
"	久保 信夫



**議案等審議結果(5月臨時会)**

番号	件名	結果
<b>市長提出議案</b>		
報告 11号	専決処分の承認を求めることについて(藤岡市税条例の一部改正)	承認(全員一致)
報告 12号	専決処分の承認を求めることについて(藤岡市都市計画税条例の一部を改正する条例の一部改正)	承認(全員一致)
報告 13号	専決処分の承認を求めることについて(藤岡市国民健康保険税条例の一部改正)	承認(全員一致)
報告 14号	専決処分の承認を求めることについて(平成17年度藤岡市一般会計補正予算第6号)	承認(全員一致)
報告 15号	専決処分の承認を求めることについて(平成17年度藤岡市簡易水道事業等特別会計補正予算第3号)	承認(全員一致)
第 60号	群馬県市町村会館管理組合の規約変更に関する協議について	可決(全員一致)
<b>選挙、選任</b>		
第 3号	議長の選挙	当選
第 4号	副議長の選挙	当選
	議会運営委員会委員の補欠選任	選任
	議会運営委員会委員長の互選	当選

